

まさかりヶ淵（鉞ヶ淵）

汲沢町小無行三百十番地先の宇田川には、「鉞ヶ淵」と呼ばれる幅約八メートル、高さ約三、五メートルの滝があります。

この滝には、昔から次のような民話が語り継がれています。

「むかしむかし、この滝うらの大きな「やこ」に大きい大蛇が住んでいたとよう、深谷村の番場のあたりに「さき山」がいてなあ、この男が滝の上の山で木を切っていたとよう、この山はてっかい木がいっぱいいてなあ、昼間も暗くすこかったとよう、男が一所懸命、木を切っているとよう、持っていたまさかりが吹っ飛んでなあ滝の下におっこちてしまったとよう、「これはしまった」と滝つぼをのぞいて見たらなあ、なんとたまげるじゃねえかよ、滝つぼの底は明るくてよう、きれえて、その水の中に、またまたきれえなお姫さまが横を織っていたとよう。

さきやまは、おそるおそるまさかりをおっこしたことを話してよう、「そこにあるわっしのまさかりを取ってくだらんか」と頼んだとようするとなあ、「これですか」とひろい上げてなあ「わたしはこのままで、わたしがここにいることを人に言わないで下さい」ともし約束を破れば、あなたの命はたちどころになくなりませう」といつて渡してくれたとさあ。

さき山が、まさかりを肩に家に帰ってみるとよう、近所の人や親類の者が大勢集まって念仏を唱え、法事のまつ最中だったとさあ。

これはなあ、さき山がまさかりヶ淵の上の山に木を切りに出たきり帰って来ないので、つぎ死んでしまったことと思つてなあ、今日は三回忌の命日だと言ふんだとよう。

そこえさき山が、ひま、こり帰って来たもんでなあ、みんな驚いてなあ、色々話を聞きたがったと。

でも、さき山はまさかりヶ淵の主の、あのきれいなお姫様との約束があるのでなあ、決して話をしなさいと思つていたと。

ところ、あ、ちゃんや、おつかあがしつこく聞くもんでなあ、ついまさかりを取つてもらったこと、話してしまつたとよう、それならその場にはつたり倒れてよう、そのまま死んでしまつたとよう、それからこの滝を鉞ヶ淵というようになったんだと。」（汲沢がせりし）

Artefactory
IMAGES
この民話には、この異なるお話もあるようです。

作品番号：17301851

作品タイトル：まさかりま淵

作家：幸山 耀久

キャプション：民話に残る宇田川「まさかりが淵」をとりまく林。柴刈りをしていた彦六は、勢いがあまり淵に“

コレクション：OPO

ソース：

撮影地：横浜市戸塚区汲沢

撮影年月日：2017/6/10

学術名：

クレジット表記：(c)Artefactory

モデルリリース：なし

プロパティリリース：なし

ピクセル数：4175px × 2783px

印刷サイズ：30.3cm × 20.2cm

データサイズ：11.9MByte

ファイル形式：JPEG